

日本財団

「子ども第三の居場所事業」

長崎県長崎市における

「子ども第三の居場所」

学習・生活支援モデル

～2023年度 活動報告書～



特定非営利活動法人

フリースクールクレイン・ハーバー

目次

○はじめに	P1
○事業概略	P2~3
○事業の成果と反省	P4
○今年度の活動	P5~7
○「保護者デー」	P8~17
○保護者の感想	P18~20
○子どもたちの感想	P21~23
○スタッフの感想	P24~27
○来年度へ向けた課題と展望	P28~29

はじめに

特定非営利活動法人

フリースクールクレイン・ハーバー

代表 中村 尊

「子ども第三の居場所（学習・生活支援モデル）」の運営が2年目を無事に終えました。これもひとえに、ご支援・ご協力いただいた皆様のおかげです。ありがとうございました。事業が2年目を迎えて、活動実績が地域に浸透してきている感じも得ています。行政からの紹介で利用に至ったご家庭や、市民の方からの紹介がきっかけとなったご家族もあります。また、食材の寄付や活動機会の提供、スポーツ観戦の招待などもしていただき、寄付金も増えたりと、様々なかたちで支えていただきました。近隣住民の方々からも子どもたちに温かい声をかけてくださったりと、感謝する機会が増えました。

2年目を迎えて慣れている子と新しく入ってくる子が仲良くできるだろうかと心配することもありました。1年目よりも口喧嘩やイザコザは増えました。「もう、クレインやめる！ 明日は来ない！」なんて言葉も良く聞かされました。しかし、次の日にはケロっとして来ている姿は微笑ましかったです。そんな様子を見ていると、子どもなりに自分と他人の考えや行動の違いに戸惑いながらも折り合いをつけていく社会性を身に付ける場にもなってきたなあと嬉しくも感じます。2年目を迎えたスタッフが、子どもたちのイザコザを程よい距離感で見守れる力量や余裕が出てきたのも大きかったと思います。スタッフ同士の意思疎通も子どもたちを見守るには大切だと実感しております。

今年度は、昨年度よりも様々な背景のご家庭の子どもが増えました。片親が在日外国人の子ども、親の健康状態が良くないひとり親世帯の子ども、長崎に引っ越してきて間もなく頼れる知り合いが近くにいない親子など。そのようなご家庭の子どもたちも、「子ども第三の居場所」では元気に笑顔で過ごしてくれます。保護者の方々の表情からも少しずつ固さがほぐれていくのを感じます。いろんな状況で緊張していたり大きな不安を抱えていた親子が笑顔になっていくのを見て、やはりこのような居場所は地域に必要だと痛感しました。「子ども第三の居場所」のスタッフに大切にしてもらっていることのひとつに「支援臭をさせない」ということがあります。様々な困難を抱えている子が来ますが、スタッフが子どもたちに対して「可哀そう」とか「何かしてあげなきゃ」という視点を持つのではなく、「支える側」と「支えられる側」という（ともすると上下関係になってしまいそうな）関係性ではなく、一緒に楽しく寄り添うような関係性で過ごすことを大切にしています。そんな関わりの中で信頼が生まれ安心して自分を出せる居心地の良さを感じて、次第に自己受容と他者理解を育んでくれるのだと思っております。

「子ども第三の居場所」の取り組みを多くのお市民に知っていただくことで、地域のあちらこちらで子どもの笑顔が咲き、おとなにも心のゆとりができるよう、この成果報告書が役立てればと思っております。

皆様と、皆様の身近にいる子どもたちの笑顔が増えますように。

事業の概略

【事業目的】

- ①地域の子どもたちが家庭の経済状況により学習の機会や色々な体験の機会を失うことが無いよう、家庭と学校以外に通える「第三の居場所」を開設・運営し
地域のみんなが、地域の子どもを育てる社会を目指す
- ②学習支援、生活支援（主に調理の手伝い）を通じて、子どもたちに生き抜く力を身に付けてもらうことを目指す
- ③家庭内で子育てを抱え込んでしまうことの抑止を目指す
- ④子どもたちが様々なコミュニティ、多様性のある関係の中で『自己受容感』と『他者理解力』を得ながら成長し、助け合い豊かな人生を送れる社会を目指す。

【対象者】

- 経済的困窮世帯・ひとり親世帯
 - 保護者が夜に仕事等で子どもだけで留守番をしている家庭
- ～2023年度利用者～

小学生 11名 中高生8名 年間利用者合計 19名

【協力団体】

- ・長崎市こども部こども政策課
- ・長崎市社会福祉協議会
- ・ながさき子ども食堂ネットワーク
- ・一般社団法人ひとり親家庭福社会ながさき
- ・長崎大学やってみゅーでスク

【事業内容】

○利用者の募集について

- ・長崎市の子育て応援情報サイト「イーカオ」に掲載
- ・地域の新聞に折り込みチラシ4500部を配布
- ・近隣の小学校を訪問、事業の説明
- ・近隣の学童クラブへ事業案内およびチラシの郵送
- ・当団体が運営している「学生服バンク」の利用者へ声掛け
- ・連携団体へのチラシ配布と利用者募集案内
- ・「夜間の居場所」専用のホームページにて事業の紹介と利用者の募集

【夜間の居場所の運営】

月曜日から木曜日の週に4日、17時から21時まで
当団体施設を居場所として使用。

宿題のサポートや夕食の提供を主に行う。

希望者には送迎（有料）も実施している。

【保護者デイの開催】

月に1日程度の割合で土曜日もしくは日曜日に居場所を
開所し、保護者も一緒に過ごすイベントデイを設けた。

今年度は2023年4月から2024年3月までの間に14回開催。

【相談受付】

子どもたち→夜間の居場所利用時間

保護者→保護者デイ

それぞれに相談できる時間を設けた。

また保護者には随時メールや電話での相談にも対応した。

事業の成果と反省

成果

- ・利用した子どもたちが毎回楽しく過ごしてくれたことが一番の成果である。小学生が多いため、極力家庭的な雰囲気の中で過ごせるようスタッフ一同努めた結果と感じている。
- ・今年度は食事とは別に毎回おやつを提供した。おやつを食後に食べるために夕食も残さず食べようと意欲的になり、食べ残しの削減にも繋がった。
- ・子ども食堂からの食材や物資の提供や、農家から格安で野菜を購入することが可能となり、利用されているご家庭に何回か配布し大変喜んでいただけた。
- ・前年度とスタッフが変わらず仕事にも慣れ、気持ち的にも余裕を持って取り組むことができた。気持ちに余裕を持てることは、子どもたちにとってもプラスの効果があったと感じている。

反省

・学生ボランティアが定着しなかった。継続できない理由は本人に聞かないと分からないが、子どもの個人情報等を全てボランティアに伝えられない事情等もあり、そういった点で疎外感を感じさせたかもしれないと思っている。

来年度も引き続き学生ボランティアは募集するので、参加した学生ひとり一人にやり甲斐を感じてもらい、学びがあると実感してもらえるようなサポートに取り組んでもらえるよう一緒に考え活動していきたいと思っている。

今年度の活動

【1日の活動の流れ】

①スタッフミーティング

毎週月曜日はスタッフが全員で1週間分の振り返りをしながらスタッフミーティングを実施。

活動日は当日の参加者の様子や食事の内容などをスタッフ専用のLINEグループにて報告し情報を共有。

保護者からの連絡や出欠連絡もLINEで共有し、スタッフ一人一人がどのように動くべきかを考え、子どもたちが安全に楽しく過ごせるよう努めた。

②子どものお迎え

下校した子どもたちを

- ・学校
- ・自宅
- ・習いごと先
- ・放課後等デイサービス など

それぞれ指定された場所へスタッフが専用のマイクロバスで迎えへ。学校等の施設へ迎えが必要な際は、先生方や担当の方へご挨拶に伺い顔合わせを行った。

またどのスタッフが伺っても問題ないようにスタッフ用の名札を作成し着用した。



③食事作り

食事作りの担当は日によって変わります。毎回同じ人が作るよりもバリエーションが広がり、色々な食事を楽しむことができます。

食物アレルギーの子もいるので、参加するメンバーによってメニューを組み立てました。また学校の給食と同じメニューにならないように気を使いました。

餃子作りの時は子どもたちと一緒に皮で包む作業もし、盛り付けや配膳なども極力手伝ってもらいました。最初は言われないと動けなかった子が、今では自分から「お茶準備します」と率先してお手伝いをしてくれるようになりました。

④学習

子どもたちが居場所へやってくる時間はバラバラですが基本的には来たらすぐに学校の宿題に取り掛かります。

分からない箇所はスタッフや大学生のボランティアさんに教えてもらいながら進めていました。

宿題がない子は、勉強している子どもの邪魔をしない様にできるだけ静かに過ごす、読書をするなど自然とそういった習慣が身につけていきました。

⑤夕食

夕食は子どもたちとスタッフ全員で食べるようにしています。

人数によっては3か所にテーブルを分けています。

ここでは嫌いな物を無理に食べさせたりはせず、最初から食べたくない物は配膳しません。量も個人が食べたい分に調整しすることで残すして廃棄することを極力無くし、食事が楽しい時間になることを心掛けています。

⑥自由時間

夕食後は楽しい自由時間♪

テレビゲームやカードゲームで盛り上がることもあれば

YouTubeでちょっぴり怖い動画を観るなんてことも。

UNOとトランプ(大富豪)は定番化し、子どもも大人も関係なく本気で遊んでいました。

⑦子どもの送り

帰りは保護者が迎えに来る子もいれば、送迎車で自宅まで送っていく子もいるので、それぞれに対応しました。

自宅まで来て「鍵を持っていない」と家に入れず、保護者が仕事から帰宅されるまで待っていた。なんてこともありました。特にトラブルもなく夜間の送迎ができました。

実際に子どもたちと一緒に過ごせる時間は3時間程度と非常に短いのですが、一緒に食事をしながら学校での出来事を聞いたり、ゲーム等の楽しい時間を共有することで信頼関係が少しずつ築けていることは感じられました。

子どもは親に心配をかけたくないという思いを、子どもなりに持っています。それでも一人で抱えるには荷が重かったり、誰かに聞いて欲しいと思っています。

関係ができていく中で親や先生には言いづらいようなことでも、クレインのスタッフには話せる・相談ができる関係ができることで、子どもの孤独感の軽減や悩みの早期解決にも繋がります。

何よりも子どもたちには家族や先生以外にも、信用して頼れる大人がいるということを伝えたいと思いました。

保護者デー

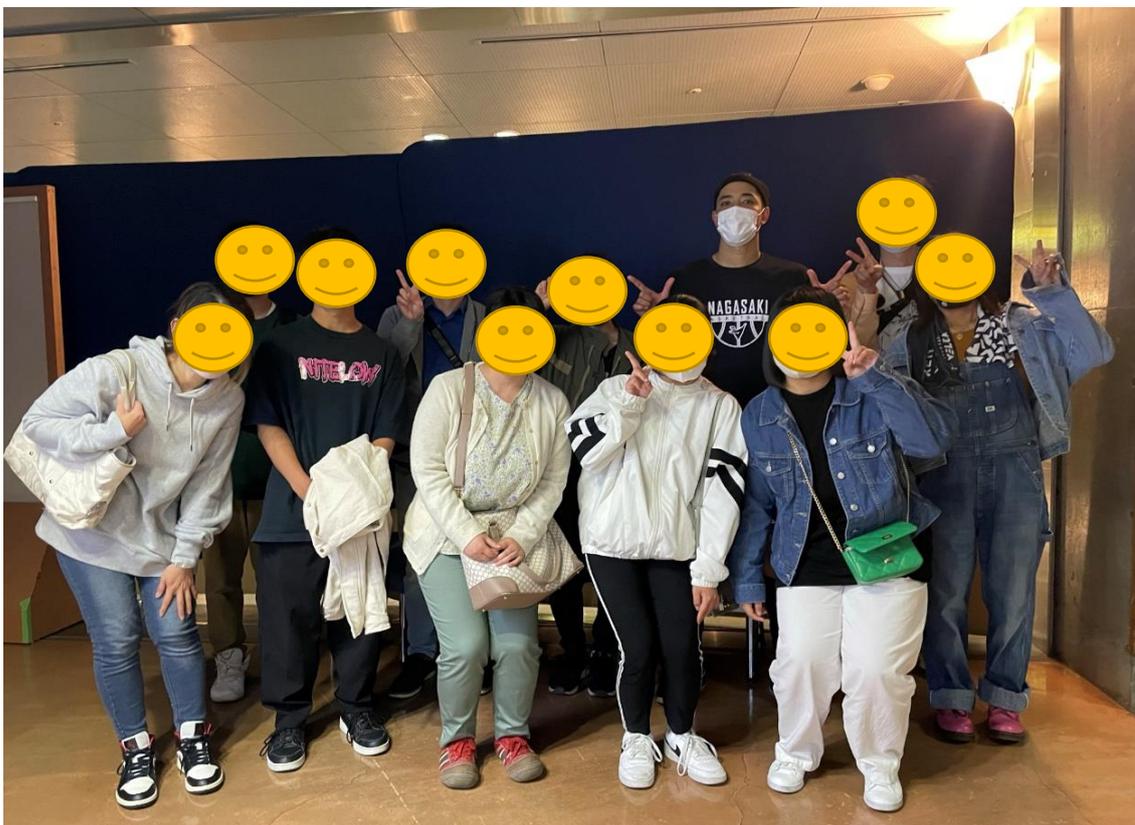
「保護者デー」は月に1回の頻度で、主に土日で開催しています。
この日は子どもと一緒に保護者にも活動に参加していただき、親子で楽しい時間を共有してもらうことを目的に様々なイベントを計画し実施しています。
土日は仕事の都合でなかなか参加できないという保護者の声も多く平日の夜に開催することもあります。
「保護者デー」は親子にとって楽しい時間が共有できるだけでなくスタッフ側としても保護者としっかり関われる貴重な時間でした。

4月22日(土):バスケットの試合観戦

参加者:子ども7名 保護者1名 スタッフ3名

場所:長崎市カブトガニアリーナ

内容:B.LEAGUEのB1で活躍する「長崎ヴェルカ」所属の松本健児リオン選手より今年も試合にご招待いただいた。



【4月：たけのこ掘り】

参加者：子ども7名 保護者2名 スタッフ3名

場所：県民の森ながさき

内容：毎年恒例となっている県民の森ながさきでのタケノコ掘り！
職員さんに教わりながら子どもたちも沢山収穫しました。



【5月24日（水）蛍鑑賞会】

参加者：子ども7名 保護者2名 スタッフ3名

場所：長崎市 琴海町

内容：思っていたより蛍の数は少なかったのですが、光を放つ
蛍を見つけるたびに子どもたちは歓声をあげていました。



【6月17日(土):田植え】

参加者:子ども7名 保護者2名 スタッフ3名

場所: 長崎県多良見町

内容: 知人の田植えに参加させていただきました。

最初は「泥で汚れるからヤダ～」と言っていた子も
泥にまみれながら楽しく作業に取り組みました。



手作りの
ブランコだよ♪



美味しいお米が
できますように!



【7月：そうめん流し】

参加者：子ども7名 保護者2名 スタッフ3名

場所：県民の森ながさき

内容：あいにくの雨でしたが竹も自分たちで準備をして
どのようにセットすれば上手くそうめんが流れるのか
子どもたちが何度もチャレンジして完成させました。



竹も自分たちで割って
そうめんが流れるように
工夫してセットしました

そうめんだけでなく
野菜なども流して
楽しみました！



【8月3日(木)～4日(金):五島キャンプ】

参加者:子ども7名 保護者2名 スタッフ3名

場所:五島市

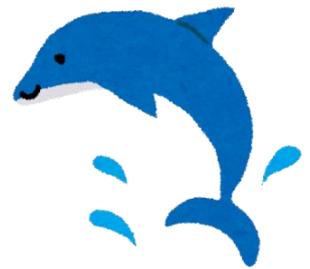
内容:長崎からフェリーを利用して五島へ。

海水浴をはじめ、釣りやバーベキューを楽しみました。

とにかく海がキレイで感動しました。



五島の海は本当に綺麗!

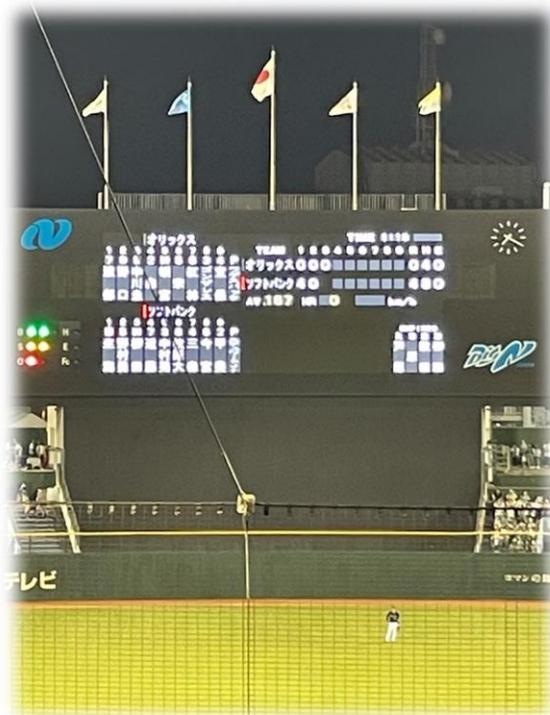


【8月29日(火):プロ野球観戦(ソフトバンクVSオリックス)】

参加者:子ども7名 スタッフ2名

場所:長崎県営野球場

内容: 支援者よりご招待いただき
試合の観戦をしました。



【9月24日(日):キノコ鑑賞会】

参加者:子ども7名 スタッフ2名

場所:ながさき県民の森

内容: 県民の森の自然の中を
散策しながらキノコを探し
採取して写真のように
標本の様に並べました。
沢山の種類のキノコの存在
を知りとても勉強になりました。
キノコは外部への持ち出し厳禁
なので、子どもたちはちょっぴり
残念がっていました。



【10月6日(金):長崎くんち親睦会前夜祭】

参加者:子ども7名 保護者2名 スタッフ3名

場所:長崎市 県庁跡地

内容:一般社団法人長崎青年協会様より

おくんち広場での前夜祭にご招待いただきました。

会場では食事の提供をはじめ、ゲームコーナーで遊んだり
龍踊りの体験までさせてもらい子どもたちは大喜びでした。



気球も間近で見れました!

【12月3日(日):クリスマスリース作り】

参加者:子ども 9名 保護者 1名 スタッフ 3名

場所:長崎市 クレイン・ハーバー施設

内容:県民の森ながさきから材料を提供していただき

自然の素材を活かしたクリスマスリース作りを実施。

庭で窯に火をつけ暖を取りながら、外と室内で作業を進めました。

ひとり一人違う個性豊かなリースが出来あがりました。



飾りはどれ使おう？

出来上がったリースは自宅に
持ち帰り飾りました



クリスマス会も
しました



【1月21日(日):スウェーデントーチ作り】

参加者:子ども6名 保護者2名 スタッフ:4名

場所 県民の森ながさき

内容:チェーンソーで材木に切り込みを入れる作業も

職員さんにサポートしてもらいながら頑張りました!



【2月22日(木):ランタンフェスティバル】

参加者:子ども5名 保護者:2名 スタッフ:3名

場所:長崎市 ランタンフェスティバル会場

内容:4年ぶりに通常開催されたランタンフェスティバルへ。



【3月24日(日):木工体験】

参加者:子ども:10名 保護者1名 スタッフ3名

場所:県民の森ながさき

内容:廃材を利用してそれぞれが自由に工作を楽しみました。

木製の車やウサギ用のおもちゃなどの作品ができました!

【3月30日(土)31日(日):バスケットの試合観戦】

参加者:子ども:9名 保護者:7名 スタッフ:2名

場所:カブトガニアリーナ

内容:B.LEAGUEのB1で活躍する「長崎ヴェルカ」所属の松本健児リオン選手より、カブトガニアリーナでの最後の試合にご招待いただきました!

新アリーナ「HAPPINESS ARENA」の完成もとても楽しみです♪



保護者からの感想

私自身の体調不良で子どもたちの栄養面や夜の時間の相手をしてあげられないことが多く利用させていただくようになり子どもたちも「ご飯美味しかったー」「楽しかったー」など明るく夜の時間を過ごしているようでとても感謝しています。また私も一人の時間が取れ、心身ともにゆっくり過ごさせていただきありがたく思っています。

ひとり親世帯です。

クレインさんから学生服を頂いた時に「夜間の居場所」について教えてもらいました。

子どもの習い事の関係で週に1~2回の利用ですが、1時間でも私自身が家でゆっくりできる時間を確保できることが本当に有難いです。

時々野菜などを頂けることも非常に助かっています。



わたしは3年間夫たんしんふにんご子どもたちとひとり向き合って来ました。はんこっきをむかえた年子の子どももたちはあたしの言こうことなどまきくわけもなくプレッシャーであたしのお心と身体はボロボロでした。そんな中しりあいにクレインさんの誂^{しん}千^せを聞^きき、ごく中村さんにちんらくをとってもらいました。クレインさんはただ預^よってくちるだけではなくいろいろな楽しい行事^{ぎじ}や学年のちがった仲間^{なかま}すごすことが出来ます。子どもたちも楽しそうです。そんな子どもたちを見てもあたしもプレッシャーから少しがいほっさあた気がします。

クレインさんは子どもたちだけではなく、親^{おや}であるあたしも曲^まげしてくれたいようにな気がします。これからもまたよろしくおちがいします。

この方はロシア出身で

異国の日本で言葉の壁や様々な困難を抱えながら子育てを頑張ってくれました。

現在夜間の居場所に兄妹で通ってくれています！

子どもが夜間の居場所を利用させていただき丸1年が経ちました。
母子家庭で仕事が終わるのが遅いため、利用させてもらっています。
子どもが朝から「今日はクレイン!」と、行く日は必ず言うほど
1番好きな居場所になっています。

同世代の子どもさん、年上のお兄さん・お姉さんとの距離感の取り方コ
ミュニケーションの取り方など、日々成長するのをスタッフの方々に
温かく見守られ楽しく過ごさせていただいています。

月に1回のイベントにも参加させていただき、普段連れて行けない所や貴
重な体験を色々でき、親子共々感謝感謝です。

夜の居場所の方々に優しく接してもらい美味しいご飯を
たべさせてもらえ、安心して働くことができ
家に帰ってからも楽しそうな子どもの顔を見ていると
元気に家のことも頑張れます。

親子共々最高に居心地のいい場所です。
スタッフの皆さま、いつもありがとうございます。
これからもどうぞよろしく願いいたします。



子どもたちと色々な体験をするたびに
大人側も楽しみながら成長させてもらっている
ことを実感します。
また色んなところに出かけようねっ!

子どもたちの感想

図工が楽しいです



いろんな食事のメニューが食べれて
落ち着いた雰囲気とても居心地が良かった

宿題を教えてください。
パンニャとうさぎたちと遊ぶのがとっても楽しい。

やすにいとあきさんの作るご飯がとても美味しかったです。
特にやすにいの作った「チーズハンバーグ」が美味しかったです。
夜間ではご飯を食べるだけでなく、夜間に来た人たちと
遊んだりするのも楽しいです。



ここではみんなと一緒にごはんを食べられるのが楽しい。
家にはおやつがないけど、ここでは色々食べれる。
YouTubeも観れるのうれしい。



勉強をしなさいとか
ご飯を全部食べなさいとか
いやなことを言われたいのがい
い。
モンやマロに
会えるのが楽しみ。



ウサギたちも
子どもたちが
大好きです



わたし、くれんはあはでいちばん、たのしかったことわ、
 うんどうあとおひあのおしゃべりと、おへかき、
 いろいろたのしか、たみまさまりがとう。
 ♡



スタッフの感想

子どもたちをお迎えに行くと、元気に出てきて速射砲のように話してくれたりします。何人かの子が同時に話しかけてくると、どの子にどう答えようかと困惑もするのですが、うれしい悲鳴だなあと感じて微笑んでしまいます。反対に、お迎えに行ったときに「今日は行かない」とか拗ねていたり、無言で送迎用のマイクロバスに乗り込んだりするときもあります。「学校で何か嫌なことでもあったかなあ」とか「自宅で何かあったかなあ」と気になりますが、居場所について食事したり、他の子と遊んだりしているうちに元気になったりしています。気持ちを切り替えれる場所になっているんだなあ実感します。

送迎用のマイクロバスの中も子どもたちにとっては楽しい時間のようです。かわいい絵柄のマイクロバスでのお迎えは子どもたちもちょっとうれしそうですし、なにより車内でワイワイできるのが楽しいようです。イベントにでかけるときのマイクロバスの車内は、もう、やかましいくらいです(苦笑)。運転手の悪口が大声で飛び交うときもあります…(苦笑)運転が終わるとドツと疲れがでますが、でも、子どもたちにとってはバスハイクのような楽しい思い出となっているんだと思うと、運転手としてもうれしく思います。いつかこの子たちが大きくなっていろんな悩みや不安を抱えたときも、このマイクロバスを見かけたら、ちょっと元気になれるかなあ～。親子参加のイベントでは、普段は見れないわが子の様子を見れるようで親御さんも驚いたり微笑んでくれたりしています。親子での思い出ができたり親御さんの表情も明るくなったりしていて良かったなあと思います。野外イベントでは、協力してくださる地域のボランティアの方々や市民の皆さんがいてくださって、そのような人となりがもてるのは、スタッフとしてもありがたいです。キノコ博士のおじさんも、森の中を動き回ってる子どもたちを優しく見守り、時には危険を教えたりして下さって、普段の居場所だけでは体験できないことを子どもたちにさせてもらえることに、スタッフとしても感謝していますし、学びにもなっています。いろんな思い出が、きっと子どもたちを支えいてくれると思うと、そこに携われることにスタッフとしてやりがいを感じています。

昨年に引き続き「夜間の居場所」で子どもたちの支援に携わってきました。今年度は小学生（低学年）が増え賑やかになった反面、大変なことも多々ありました。

それでも子どもたちもスタッフも笑顔で楽しく過ごせたのは、共に働くスタッフや保護者の方々の協力・理解があってこそと感謝しております。子どもを叱った回数もかなり多かったです。送迎車の中で窓を開けて大声で叫んだり、ご飯の時にしょっちゅう席を立ったり等、毎回同じようなことで注意をしていました。

叱られた子どもからは「もう夜間の居場所は辞める」と言われる始末。実際に辞めた子どもはおりませんが、素直に「はい」と言って態度を改めることができる子どもばかりではないので、どのように伝えれば注意されている理由や改善すべき理由を理解してもらえるのか？

その点はかなり苦労しました。

ただ大変だと言いながらも、やはり子どもたちと過ごす時間はかけがえのない時間でもあり、調理したご飯を「美味しい」と言いながら完食してくれたり、学校での出来事を話してくれたり、大変な中にもたくさんの幸せがあることは仕事のモチベーションにも繋がっています。

「夜間の居場所」で時間を共有し信頼関係を構築していくことは、子どもたちが何か困った時に「SOSを出せる大人」の存在を子どもに認知させる貴重な機会でもあると考えています。

インターネットやSNSの普及などにより子どもたちが犯罪に巻き込まれるリスクが高まっている中、保護者には相談しにくいこともあるかもしれません。そんな時に一人で抱え込み事態を悪化させるのではなく、身近にいる信頼できる大人に頼って欲しい。

子どもがいざという時に頼れる存在になりたいと思っています。

また保護者にも家庭だけで子育てを抱え込まず、遠慮なく「手を貸して」と言ってもらえる存在になることが私の理想です！

「夜間の居場所」を通じて知り合ったご家庭に、安心して過ごせる居場所を常に提供できるよう来年度もがんばっていきたいと思っています。

「夜間の居場所」でスタッフとして活動していると、子ども達に対して色々なことを感じます。

たくさん子ども達と接していると、もちろん子ども達それぞれ違う性格・考え方なので、食事や過ごし方、お願いしてくることも様々であることが分かります。ご飯をたくさんおいしそうに食べる子、おやつのアイスクリームを食べるために苦手なおかずを挑戦する子、一人でのんびり過ごす子、一緒に鬼ごっこやボール遊びをしようという子など。みんなそれぞれの楽しみ方をしているのだなと思います。

中には、遊びや勉強で思い通りにいかず怒ったり泣いたりする子もいたりします。しかし時間が経ち落ち着いてくるとまた元の笑顔に戻り皆と楽しく過ごし、我々スタッフにも心を開いてくれるようになります。

色々な子ども達がありますが、たくさんの人と接することで楽しい時間を過ごしているんだろうなということは、皆に共通しているのかなと思います。家で一人、家人の帰りを待つよりは、時にはけんかしたりすることがあっても色々な人とコミュニケーションをとれることは良いと思います。

あらためてこの「夜間の居場所」があることの意義と大切さを深く感じます。

夜間の居場所での仕事にも慣れ自分自身も余裕をもって子どもたちに接することができるようになりました。

色々な事情を抱えた子どもたちが集まる場所では、毎回些細なトラブルも発生していますが、同時に子どもたちの成長も感じています。

これからも子どもたちと保護者のために少しでもお力になれるよう楽しい居場所を作っていきたいです。



夜間の居場所で

子どもたちをお預かりします!

NPO法人フリースクールクレイン・ハーバーは、不登校の子どもたちの居場所として活動をはじめ今年20年目を迎えます。昨年度、日本財団より助成を受け「夜間の居場所」事業をスタートしました。親が夜も仕事で子どもだけで留守番させている、夕食の準備や宿題を見る余裕がない等ご家庭によって様々な事情があると思います。そういった時は是非「夜間の居場所」をご利用ください! 学校や年齢に関係なく一緒にご飯を食べたり、勉強したりゲームをしたり子どもたちがそれぞれに自由に楽しく過ごしています。送迎もあるので指定先へのお迎え(自宅・学校・習い事先など)も可能です。帰りも自宅まで送り届けるので、夜間でも安心してご利用いただけます。詳細は当団体にお問い合わせいただくか、ホームページをご覧ください。

開所日:月~木曜日(祝日はお休みです)

時間:17:00~21:00

月に1回土日のいずれかに親子DAYを開催します♪

対象者:小学生~高校生年代の子どもたち

ご家庭の事情を考慮し対象外の子どもの受け入れも検討しますのでご相談ください

料金:月謝¥5000(日利用可:¥1000)

食費¥300(1食)

送迎費は距離によって異なります



見学やお試し体験も大歓迎です(^^)

※利用料金は家庭の経済状況のより減額も可能なのでご相談ください

お問い合わせは

NPO法人フリースクール クレイン・ハーバー

☎852-8145 長崎市昭和3丁目387-1

tel:095-844-8899

mail:crane_harbor@yahoo.co.jp

HP: <https://craneharbor.info/>



不登校に関するご相談・ご質問もいつでもお問い合わせください。

今年度は長崎市内の全ての学童保育所へチラシを郵送し周知活動を実施しました。来年度も引き続き子どもたちの受け入れをいたしますので、利用を希望される方はご連絡ください。



来年度へ向けて

課題

「子ども第三の居場所(学習・生活支援モデル)」の運営2年目を終えて感じる課題として、まず、孤立化している家庭や相談しても支援につながっていない家庭が多いという社会的な問題を感じます。相談機関に相談するという術を知らずに抱え込んで頑張っている親、相談機関に対する心理的ハードルを感じる親に対し、どのように情報を伝え、またどのように相談しやすさを感じてもらおうかというのが1つの大きな課題だと感じます。その解決策としては、やはり子どもが通っている学校を通じての周知が必要だと思えます。しかし、学校からの紹介にしても、チラシだけだと読まずに捨ててしまう人も少なくないと感じます。そこにひと工夫することが課題だと感じております。

また、相談しても支援につながらないケースも散見されました。相談機関に相談しているのに、実際につながったのは市民の方からの紹介だったということがあります。これは、相談機関のソーシャルスキルをもっと高めてもらわないといけないという課題もありますが、つながる先の情報の周知強化も課題だったと痛感しております。相談機関から連絡を受けたときに「このようなご家庭が困っているのですが、そちらでは受け入れられるでしょうか？」という問合せがありました。紹介するときに疑問形で問い合わせるのは、存在は知られていても内容の活動理解は弱かったんだと痛感しました。その後、活動内容の周知を強化したところからは現場見学に来られるところもありました。今後、相談機関との連携強化・相互理解も課題の一つだと感じます。

運営自体における課題は、様々な状況のご家庭・子どもを受け入れるにあたってのスタッフの充実(質・量ともに)が課題と感じます。2年目は優秀なスタッフのおかげで乗り切ることができましたが、今後さらにいろんな子どもが増えるとなるとスタッフ増員と、新規スタッフのスキルアップが欠かせません。様々な状況の子どもや保護者に寄り添えるスタッフを育成するのにも時間を要します。スタッフ増員と育成にかかる費用というのが大きな課題です。学生ボランティアが定着しなかったのも課題として感じました。学生ボランティアがイメージしていた子ども支援と実際に合う子どものギャップが大きかったと思います。生意気でわがままにも見える子どもの背景にあるものを、しっかりと学生ボランティアにも伝えることが大切だと感じました。

様々な課題を上げましたが、これらの課題に向き合い解決していくためにも安定した運営資金、余裕のある活動資金が欠かせません。今後の活動継続を安定的に行うためにも様々なかたちでの活動資金の獲得が1番の課題となってくると痛感しております。

市民の皆様、地域企業の皆様のご協力、何卒お願い申し上げます。

展 望



2022年6月にこども家庭庁が設立されました。こども家庭庁は「こどもがまんなかの社会を実現するためにこどもの視点に立って意見を聴き、こどもにとっていちばんの利益を考がえ、こどもと家庭の福祉や健康の向上を支援し、こどもの権利を守るためのこども政策に強力なリーダーシップをもって取り組みます。」と掲げています。そして、「こども施策を社会全体で総合的かつ強力で推進していくための包括的な基本法」として「こども基本法」が2023年4月に施行されました。「こども基本法」は「児童の権利に関する条約(子どもの権利条約)」を基本理念としています。そして、次の6つの基本方針を掲げています。

- 1) すべてのこどもは大切にされ、基本的な人権が守られ、差別されないこと。
- 2) すべてのこどもは、大事に育てられ、生活が守られ、愛され、保護される権利が守られ、平等に教育を受けられること。
- 3) 年齢や発達の程度により、自分に直接関係することに意見を言えたり、社会のさまざまな活動に参加できたりすること。
- 4) すべてのこどもは年齢や発達の程度に応じて、意見が尊重され、こどもの今とこれからにとって最もよいことが優先して考えられること。
- 5) 子育ては家庭を基本としながら、そのサポートが十分に行われ、家庭で育つことが難しいこどもも、家庭と同様の環境が確保されること。
- 6) 家庭や子育てに夢を持ち、喜びを感じられる社会をつくること。

国および地方自治体は、こども基本法の理念、基本方針をもとにこどもに関する政策を実施しなければなりません。それは、私たち子どもに関わる活動をしている団体も同様です。厳しい状況の中で子育てをしている家庭がある中、私たち「子ども第三の居場所」は基本方針の5に掲げてある「家庭で育つことが難しいこどもへのサポート」を担っています。国に先んじて日本財団様の支援を受け全国に展開している「子ども第三の居場所」を継続していくには、行政や地域市民との連携・協力は欠かせません。

2年間の実績をもとに行政との連携・協力を強化し、地域に理解を深めることで、みんなで地域の子ども、日本の子どもを守り育てる社会となるように、「子ども第三の居場所」の活動を継続したいと思います。



日本財団 子ども第三の居場所

2023年(令和5年)度

長崎県長崎市における「子ども第三の居場所」

学習・生活支援モデルの運営事業

編集発行

特定非営利活動法人

フリースクール クレイン・ハーバー

〒852-8145

長崎市昭和3丁目387-1

TEL:095-844-8899

FAX:095-844-8799

MAIL:crane_harbor@yahoo.co.jp



